

③ Lショット

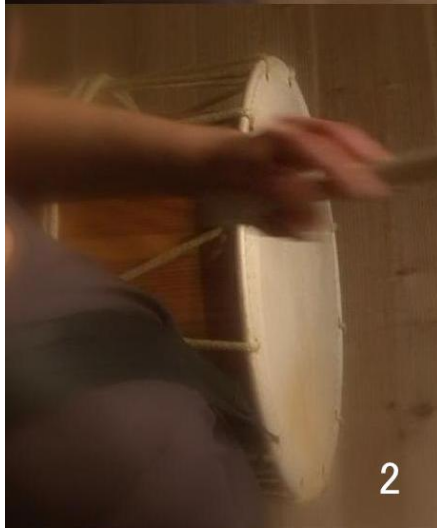


*さて左手のショットですが、これが中々難しい。何も知らず誰にも教わらずこの打ち方をすると、癖、個性…十人十色。それほど打ちにくいスタイルでしょう。

Rショットでもそうですが、このLショットは特に個性(癖)が出ます。ひたすら自分流を貫くのも一つの在り方ですが、経験者から学ぶのは上達の早道でしょう。

先ず、桶もバチも持たず、素振りをしましょう。指を伸ばして親指 or 人差指で耳たぶ・右顎エラ部分を軽く触ります。そして「空手チョップで空を切る」のイメージで桶右打面を打ちます。(手の平の側面、手相で言うところの「月丘」部分で打つ)。

ここで重要なことは「手の平がぶれない(手が反らない、被らない)」とすることです。何度も素振りをして、フォームを固めましょう。



1. 打ち始めは薬指でバチ先を持ち上げる。素振りのイメージを忘れないで(手刀のイメージ)、鋭く振り下ろす。

2. 手首は「反らない」「被らない」。バチで打ちに行こうとせず、飽くまで「手刀(月丘部分)」で打ちに行く。

3. 打面に当たる瞬間に、「手首のスナップ」と、中指と薬指1~3cm間での「指のスナップ」で鋭く打つ。

打面を打った後(正確には「バチ先が打面に当たる前に(100分の何秒単位)」バチをフリーにする。そうすると「切れのある音」になる。

手の位置を速やかに1. まで戻すと、後に出てくる【4つのストローク】の「フルストローク」となり、3. の位置に留めておくと「ダウンストローク」になる。

※そうそう、付け加えます。左手がリングに当たりそうなところまで勢いよく振り下ろし、「寸前で止める!」。握りを緩めていれば、バチ先だけが勢いよく打面に「パシッ」と当たり、音は「パ〜ン!」と。この「寸止めテクニック」が、難しい〜。